

(実験や開発、介護など) 血液を取り扱う作業に従事していた/しているから

- 健診の結果、肝機能などに異常があったから
- 健診時以外の検査の結果、肝機能などに異常があったから
- 不安な症状があったから
- 医師に勧められたから
- 知人・家族に勧められたから
- 周囲に肝炎ウイルス感染者や肝炎・肝硬変・肝癌の人がいたから
- 過去に輸血や血液製剤を使用した可能性があるから
- 厚生労働省の広報やメディアなどの報道を見たから
- 献血をしたから
- その他 ()

26. 22 の質問で「いいえ」「わからない」と答えた方は、肝炎ウイルスの検査を受けたいと思いますか(費用の負担は考慮しないでお答え下さい)

- 思う やや思う あまり思わない 思わない

27. 会社の健診で、肝炎ウイルスの血液検査を実施してほしいと思いますか(費用の負担は考慮しないでお答えください)

- 思う やや思う あまり思わない 思わない

28. 一緒に仕事をしている人が肝炎ウイルスに感染していたら、自分に感染するのではないかと不安に思いますか (再掲)

- 思う やや思う あまり思わない 思わない

29. 一緒に仕事をしている人が肝炎ウイルスに感染していたら、なるべく接触しないようにしようと思いますか

- 思う やや思う あまり思わない 思わない

30. 一緒に仕事をしている人が肝炎ウイルスに感染していたら、同性愛者・不特定多数との性交渉者・薬物中毒者ではないか等、誤った偏見の目で見てしまうと思いますか

- 思う やや思う あまり思わない 思わない

31. 肝炎ウイルスに感染していた人は、結果を誰に知らせる必要があると思いますか

- 検査結果は、本人だけが知ればいい

検査結果は、産業医、保健師などの健康管理部門の担当者に知らせるべきである

- 検査結果は、上司に知らせるべきである

- 検査結果は、上司と一緒に働く周囲の人まで知らせるべきである

- わからない

Ⅲ. 班会議プログラム

厚生労働科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業
職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究（H23-実用化（肝炎）-一般-001）

平成23年度 第1回班会議 プログラム

日程： 2011年10月11日（火） 14:00から16:00（13:30開場）

会場： 東海大学校友会館（霞が関ビル35階） 諏訪の間

1. 開会にあたって

研究代表者 渡辺 哲（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

2. 来賓の御挨拶

3. 今後3年間の研究計画について

研究代表者 渡辺 哲（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

4. 事業者を対象とした肝炎ウイルス検査と肝炎患者への就業上の配慮に関する実態調査について

研究協力者 古屋 博行（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

5. ウイルス性肝炎に罹患した労働者の就業と健康に関する実態調査

研究分担者 堀江 正知

研究協力者 川波 祥子

（産業医科大学・産業生態科学研究所 産業保健管理学）

6. 職場における肝炎患者の健康管理体制に関するこれまでの調査結果

研究協力者 奈良井 理恵（マツダ株式会社 健康推進センター）

7. 一般労働者、肝炎患者労働者を対象とした実態調査（今後3年間の計画）

研究分担者 和田 耕治（北里大学医学部 公衆衛生学）

8. 一般労働者を対象とした肝炎に対する知識や肝炎ウイルス検査の機会に対する意識調査について

研究協力者 太田 寛（北里大学医学部 公衆衛生学）

休憩（10分間）

9. 総合討論

10. 閉会の挨拶

研究代表者 渡辺 哲（東海大学医学部基盤診療学系・公衆衛生学）

厚生労働科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業
職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に
関する研究（H23-実用化（肝炎）一般-001）

平成 23 年度 第 2 回班会議 プログラム

日程： 2012 年 3 月 9 日（金） 13：30 から 16：00（13：00 開場）

会場： 都市センターホテル 松の間

13：30～13：40

1. 開会にあたって

研究代表者 渡辺 哲（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

2. 来賓の御挨拶

13：40～13：50

3. 今年度の成果概要と次年度の計画

研究代表者 渡辺 哲（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

13：50～14：05

4. 事業者を対象とした肝炎ウイルス検査と肝炎患者への就業上の配慮に関する実態調査
について成果報告

研究協力者 古屋 博行（東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学）

14：05～14：10

5. 今年度の成果概要と次年度の計画

研究分担者 堀江 正知（産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学）

14：10～14：30

6. ウイルス性肝炎に罹患した労働者の就業と健康に関する実態調査について成果報告

研究協力者 川波 祥子（産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学）

14：30～14：40

7. 今年度の成果概要と次年度の計画

研究分担者 和田 耕治（北里大学医学部 公衆衛生学）

14：40～14：55

8. 一般労働者を対象とした肝炎に対する知識や肝炎ウイルス検査の機会に対する意識調
査について成果報告

研究協力者 太田 寛（北里大学医学部 公衆衛生学）

休 憩（10 分間）

15 : 05 ~ 16 : 00

9. 総合討論

10. 閉会の挨拶

研究代表者 渡辺 哲 (東海大学医学部基盤診療学系 公衆衛生学)

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Hiroyuki Furuya</u> , Shoji Kawachi, Mika Shigematsu, Kazuo Suzuki, <u>Tetsu Watanabe</u>	Clinical factors associated with severity in hospitalized children infected with avian influenza (H5N1).	Environmental Health and Preventive Medicine	16 (No.1)	64-68	2011
Syed Muhammad Baqui Billah, Muna Shalima Jahan, Subrina Jesmine, Bounelome Keobouahome, Yoshihisa Watanabe, Takaki Kinoue, <u>Hiroyuki Furuya</u> , <u>Tetsu Watanabe</u>	Metabolic syndrome in Bangladesh using NCEP Adult Treatment Panel III criteria.	Jps J Clin Ecology	20 (1)	61-70	2011
<u>Hitoshi Endo</u> , Maki Niioka, Yoshihiko Sugioka, Johbu Itoh, Kaori Kameyama, Isao Okazaki, Risto Ala-Aho, Veli-Matti Kähäri, <u>Tetsu Watanabe</u>	Matrix metalloproteinase-13 promotes recovery from experimental liver cirrhosis in rats.	Pathobiology	78 (8)	239-252	2011

